

創立十五周年記念祝典

昭和三十年、本校では創立十五周年を迎え、その記念祝典について四月当初より学校側と育友会、学校側と同窓会それぞれ立案に着手し、育友会からの協力三十八万円、同窓会からの協力二十万円計五十八万円の予算をもってする記念祝典行事の案が、育友会においては五月十日の評議員会、続いて六月はじめの学年別総会で承認され、同窓会においても五月一日の幹事会で承認され、どちらも一口二百円の寄付募集を六月から開始した。この五十八万円の予算内容には、記念誌(芦高十五年史)発行費・式典費・祝賀費などを含まれている。六月十一日、育友会・同窓会・学校・自治会の四者の代表者をもって芦高十五周年記念事業企画運営委員会を開き、総務・財務・編集の各分科委員会に分かれてそれぞれの業務に着手した。なお、自治会としては、一人百円の臨時会費の徴収による自治会独自の記念事業を計画し、執行委員会から六月二日の代議員会に提出されたが、その日は結論が得られぬまま、十五日の代議員会に持ち越し、結局原案の一部を修正して代議員会を通過、六月二十四日の生徒大会で承認された。その予算額は十五万円で、次のような内容を含んでいる。

- 一、運動・文化・書記局外局の各部史編集 一五、〇〇〇
- 二、植樹 一〇〇、〇〇〇
- 三、略旗の作製 七、〇〇〇
- 四、記念祭援助 一四、〇〇〇
- 五、予備費 一四、〇〇〇

かくして十月八日には、学校内外を挙げて盛大な創立十五周年記念式典を挙行し、その日の前夜祭、九日の体育祭に始まる例年どおりの記念祭を十六日まで一週間にわたってくりひろげるが、音楽会にはテナー柴田陸陸氏を、講演会には朝日新聞論説委員吉村正一郎氏を招くことが決定されている。

また、すでに創立十五周年記念祭参加行事として、六月十一日、全芦高管弦楽団の第三回演奏会が講堂において催された。本年は特に校内から指揮者を起用して「白鳥の湖」(チャイコフスキー)、「ガイヌ」(ハチャトリアン)、「時計」(ハイドゥン)を演奏して昭和二十七年六月十四日の第一回、二十八年六月十八日の第二回に続いて、着実な発展ぶりを示した。引続いて六月二十七日には、演劇部が、やはり十五周年記念祭参加の趣旨で、トルストイ原作の「人は何で生きるか」を上演している。

アンケート 最も印象深かつたこと 芦高の将来に対する期待

會 和 憲 雄 (第九回生)

- 一 三年の時、数学の補習の時間「ソフさんのように思う人はそりしなさい」とのおぼちゃんのスザマシイ負けじ魂。
- 二 「皆、秀才になってくれ」とはむづかしい注文。頭がよくて陰気なのよりも、少々ろくろくてもホガラカな人間になってほしい(自分が頭がすいんで、こんな勝手な事をおっしゃる。)

実を結んだ苦闘

出席者

育友会側

- 品川源兵衛(二二年度 会長)
- 橋谷 義孝(二二年度 副会長)
- 戸谷 舍人(二二年度 副会長)
- (二二年度 副会長) 丹羽秀太郎(二二年度 副会長)
- (二二年度 副会長) 瀨谷 一郎(二二年度 副会長)
- 堀内 英一(二二年度 副会長)
- 川越 清(二二年度 副会長)

旧職員

- 阪部 由松(前校長)
- 直藏(前事務主任)

現職員

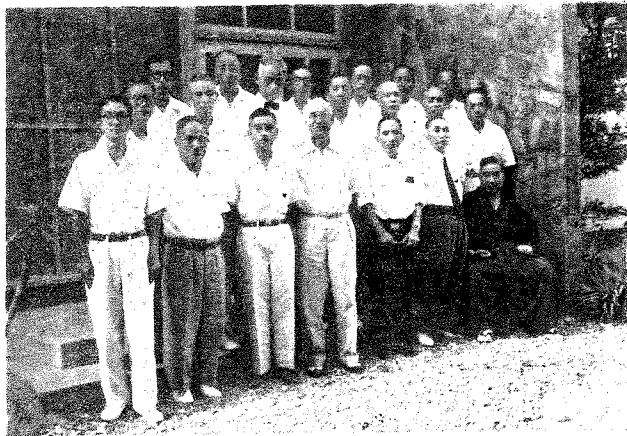
- 飯野竹二郎(校長)
- 神保 永夫
- 井上 良信
- 福田政次郎(教頭)
- 金坂 豊
- 近藤 清一
- 森造 彦造

昭和三十年八月七日
本校校長室

堀内 本日はきびしい曇りの折、いろいろ忙しい中をお集り致さ、主催者側として厚くお礼申し上げます。本年は芦高十五周年に当ります。この機会に十五年間の芦高の歴史を記録としてまとめあげようと先生方、同窓会、育友会、自治会等から出ていただいた編集委員会を作り、将来に歴史として立派なものを残したいと考えて、あらゆる角度から資料を集めております。今日はいろいろと会長や校長から裏話をお聞きしたいと考えている次第であります。また前々から、育友会長として、一度、歴代の育友会長にお集りいただき懐旧談をしたいと考えていましたのですが、その機会がなくて今日に至りましたのであります。本日は十分歓談していただきたく存じます。どうか忌憚なくおっしゃって下さい。

飯野 一寸御あいさつします。本日はまことに有難うございます。本校も本年で十五周年を迎えることになりましたが、僅か十五年の間に果下では勿論、全国に目覚ましい発展をしたのは一つの驚異ではないかと考えます。しかしそれは現在の私達の努力でなく全くお集りの皆様、前校長の並々ならぬ力であり、その上に座っている幸福をしみじみと感じて

歴代育友会長 座談会



いる次第です。十五年を顧みますと、中学の創設時、戦時の被災で校舎を失うという苦難の時代、中学より高校への準備時代と、皆々

様の御苦心は一方でなかったと考えます。ところが、今にして戦前戦後の苦難時代の記録を作っておかなければ、将来遂に作る時がないという事になるでしょう。皆様の御記憶にすがって百年の基盤を確立したいという希望を持っています。どうか芦高発展の糧となるように折角の御配慮をお願いいたす次第であります。どうかよろしく願います。

福田 座長を堀内現会長さんに、そしてわれわれ職員が進行係をつとめさせていただきます。座談会としては、別に同窓生によるものと、旧職員のものと考えていますが、これらが相補って、全きものにしたと考えています。本日の座談会では、興学会から育友会までの歴史、校舎問題、設備問題等が中心となって苦心談が出てくるかと存じます。最後に芦高への御希望御助言等を聞かして戴ければと存じます。

「興学会の創設」

堀内 芦中時代の興学会というのはどうい

う形でありましたか、また興学会の発展についてお話し願います。

品川 小学校の父兄会と同じような発足をしたわけですか。

堀内 打出に移ってからですか。

品川 ええ、そうです。昭和十七年に発足しました。

堀内 興学会は父兄会になるまでの間です

ね。

品川 その間興学会がやっていただけです

ね。

三谷 私は大変長いのでいろいろ話がありますが、私の記憶では、初代の山本校長が苦心されて、品川会長の話のように昭和十七年に興学会が発足したと記憶しています。これは単なる父兄会ではなく学校の援助機関であります。芦屋中学は神戸一中と同様の建物を、というところを考えていました。県から四十万円の予算をいただき四ヶ年で内容設備をする。ところが世帯の変化で建築が出来ず、内容も不足を生じているので興学会をつくり、援助機関を作ったのだと考えています。

堀内 興学会の初代会長は田中さんですか。何年くらい会長を勤められたのですか。

品川 田中さんはいろいろな点から適任で

あったので会長になってもらったのです。

三谷 昭和十七、十八、十九年が田中さんで、その次に小山さんでした。小山さんは戦災後に本山小学校で役員会の時に脳溢血で倒られました。

阪部 私は昭和十八年に赴任し第五国民学校の仮校舎の時でした。田中会長には二年間興学会でお世話になりました。小山さんは戦前から戦後にかけてお世話になり、本山小学校で開いた父兄会で復興のための寄付募集をしてもらった時、休憩室で倒れられて、その後なくなりました。

堀内 昭和二十二年五月十日から翌年三月まで約一ヶ年間は芦中父兄会という名称になっていますが、興学会を父兄会に変えた事情は

品川 何か理由があったように思いますが

阪部 赴任直前に部長か課長かが、芦屋へ行けば注意することが一つある。それは芦屋は富豪が集っているから、一寸でも寄付してくれと言えば始末におえぬから、そんなことはつしんでもらいたい。職員にも父兄との接触には注意してほしいということでした。これは山本前校長との事務引継の時も、

興学会は出来るだけ質素にしているという事でした。阪神間で質実剛健の気風でしょうというのが県のねらいでもありました。

「校舎問題」

一、最初予定された校地

堀内 校舎の問題が大きな問題ですが、これについて天神さんの東の一萬五千坪の最初の予定地についてどうぞ。

三谷 芦屋に何とか会という有力者の会があって芦屋で芦屋中学を作るといふ相談が来ました。芦屋に素晴らしい鉄筋の校舎をた

てる。その敷地は六籠荘の国際ホテルの西の盆地で整地して一萬坪の校地にするということでした。その中に一部国有林があって、これを大阪宮林署に相談せずに発表しましたので宮林署から勝手なことをすると抗議があり一時保留しました。県も再三大阪へ行かれたが払下げはとうとう出来ませんでした。その後芦屋市が天神山に二万六千坪の土地を買収されたので天をあてる事になりました。それが戦争になって整地することが出来ずそのままになってしまったのです。

堀内 天神山の以前に、校地として考えられた敷地があったのですか。

三谷 そろでした。

堀内 打出へ移ったのは結局岩園を追出されたのですか。

三谷 十学級は岩園でやれますからいたのですが、十五学級になると不自由になります。昭和十五年の市制実施から打出方面もいずれ発展するといふ事で芦屋市が第五国民学校の校舎を建てる事にしました。しかし差当り児童を收容しなくても間に合っている状況だったので芦中の仮校舎として借してもらった訳です。

二、打出假校舎の戦災

堀内 では打出校舎の焼失についてお願いします。

阪部 戦災は六月五日でしたが、私は一回生と二回生の卒業式を二十三年三月この校庭でゲートルがけでやりました。学校は川西航空が工場として部分品を作り、本校生が勤労動員で参加しました。その南に川鉄の寄宿舎があり、空からみると工場地帯に見えたりいす。私は学校へくる途中、白煙もりとうと上っているで、自転車の人にどこですかと尋ねると、芦中ですよ、というので、もう覚悟をしました。丁度着いた時には机を百ほど出

話は。堀内 舞鶴の兵舎を扱下げてもらうという話。

阪部 品川さんが学校のことがたてで苦心された後、亡くなった久保清俊という方が会長になった。この方と長岡さんと私とで大阪財務局へ行き舞鶴の平兵衛の建物を払い下けてもらって、打出の焼けあとへ建てようとした。これは結局うまくゆきませんでした。そこで私は芦屋に今ある学校をもらうことを考えました。これには市議の正井さんにも随分お骨折りいただきました。これが本校の苦難の山であると思います。文部省は焼けた中

学は廃校にという原則でありました。しかし県としては芦屋には高校がほしいという事でした。そして芦屋市の校舎寄付を望んでいたわけですが、その当時茶谷さんと相談して、芦屋高校完成期同盟を作ったえらい人の名を校舎を作る事になりました。寄付も二十万円ぐらい集ったと思っています。しかしそのくらいではだめです。それで、前にも申しましたように市内の小学校をもらうことを考えまして、山手小を頼んだのですが、それは無理ということでした。松岡さんが市長代理の時これを頼んでみました。何分校舎のないのは高校になれないという時でしたから、市の協議会にも出て、私は必死になって説明しました。高校はどうしても芦屋市に必要であると力説しました。そして市議の皆様のお宅を廻り、先生方にも廻ってもらい協力方をお願いしました。幸い市長や市議が私の話を聞いて、宮川校を県に寄付しようということになりました。ところが宮川校の問題が意外に宮川小学校の父兄の猛烈な反対にあいました。ここから茶谷さんどうぞ。

三、宮川校への移転

文でなくとも既得権の侵害という事がやましくいわれた時代であるので、宮川校を立ちのかすことは難しい事になったわけでした。幸に市の方が目つきりや行動して下さって、市が芦屋市の面目にかけてもやるということでした。時あたかも八月の休暇でしたが父兄大会を度々やりました。私としては皆様の御援助によって漸く任期を過ぎたわけですが、

阪部 先程の茶谷さんの御発言に弁明しておかないといけない。実は茶谷さんに白羽の矢を立てましたもう一つの原因は亡くなられた片山英一さんが次の会長の話をされた時、次の会長は茶谷さんと思うがどうか。あの人が一番よい。どんなにいやがってもぜひともなってもらいなさいといわれたので、半分だけはあの人の責任ですよ。(笑)それからもう少し付け加えねばならぬ事は教育委員会法実施までは芦屋市教育審議会というものがありません。それが教育委員会を代行していたのであります。私は中学校長であったということで、審議会の議長にさせられました。委員の方は五、六十名もおられ、市議会、財界教育界から出ておられました。茶谷さんも副会長さんもまた他校の父兄会の会長、副会長もおられました。この教育審議会で芦中の移

転が問題となって参りました。審議会の空気が全面的に芦高に反対でした。何分にも四つの小学校とその父兄会から出ておられるので、八対二くらいで、芦高には不利で、どうして対抗できなかった。そこで私は副議長の広瀬勝代さんに席を譲り、発言させてもらって大奮戦を致しました。しかし、審議会では「小学校は戦災を受けているし、中学校を建てる余裕はないではないか、つまり高等学校は本市にはいらない。義務教育さえ芦屋でやればよい。義務教育でない学校に力を入れるとは何事だ」等の意見が出て芦中の移転は成立しそうになかった。そこで私は「皆様のいわれる事は無理はない。しかしあなた達は何年間か後にいながらにして芦屋で子弟が皆高등학교に入れる時代が来るのだからして、そういういろいろな事をいつてはいかん」と、私も相当強引な議論をおしまくったのですが、何度おしまくっても衆寡敵せずであった。その間、外部の有力者を廻りましたが、有力な方で「校長さん、それは場合によっては高等學校が廃校になっても仕方がないね」といわれた。「半分は尼崎に移り半分は灘高に吸収してもらったらどうか。そうなくてもやむを得ん」と思う。こういう現在の状況だから園の

茶谷 どうも、マア、私は阪部先生にだまされましたよ。(笑)二十年の暮でしたか二十一年の二月頃でしたか、こたつがあった頃です。私が疎開先から帰る、子供が芦中に戻った時、阪部先生がおいでになって、「父兄会長をやってくれ。何もむづかしい事はない、ちょっとおつておつてくれ。何も心配はいらぬ。校舎は宮川校にきめられているから。前会長は事情があつてやめられたから」という事でした。そして何でもないからとにかくやってくれというので、私ははつきり返事せぬままにきめられてしまいました。それからが大変で、話が全然ちがってまあ大変な話なんだ。四月に新校舎に移る希望であったのですが、なかなか移れない。市会を通つても、宮川の父兄は承認せずどうしても立ちのかね。どうも私は全然わからぬが、市が承知したものを父兄が反対するのは理窟にあわぬというわけで、芦高の移転を強行するよう申し入れたのですけれどね、とにかく微力でも出来ぬので、ここにおられる橋谷さん、泉谷さんを頼んで、戸谷さんやらを引つ張り込んで、父兄会が確立したわけですよ。その頃は思想的に厄介な時代で、言論によってすべての作戦がひっくりかえる時代で、共産的な考

財政から考えて見ても、大局から考えて芦高再建は無理だと思ふ」といわれた。私は「文化に最も理解のあるあなた方に芦中を見放されてしまったら、私は一体どこに頼っていったらよいのですか」と、声涙共に下るお願いをしたのですが、その時はより返事のお言葉はなかったのです。それから私はすぐに県庁に行きました。その当時県の教育課長は田中さんであり、部長は今の畑さんです。課長が主にこの仕事をやっておりました。あの方は非常に切れる方ですが、私はぶち当たった訳です。「君の学校は芦屋市が建てるのではないか。芦屋市が建てるのだから県はそれを許すだけのことだ。宮川校を寄付するということのだから、それでええのではないか。」「それが出来ないのです。」「出来ないからそれでよいのだ。」「出来るようにして下さい。私は中にはさまり、どうにもこうにもならない。出来るようにして下さい」とお願いしました。また茶谷会長、吉原さんが岸田知事さんと心易いので幾度もお願いにいらしていただきましたが、遂に田中課長さんが英断を振われて、自分で依命通牒を起草されました。課長が県庁の中で起草されることは減多にあり

ません。大抵下の主事あたりが起案するのでありますが、課長自ら起案され、何月何日に明け渡せという知事の指令書を出そうということになり、その指令書が八月の末に届きました。それで一方、こちらに頑張っておられる宮川小学校の父兄は進駐軍までも出したのでありますが、その県知事の指令で漸く解決がつくようになりました。処が「移って来たらただではおかぬ。相当の覚悟をせよ」という流儀が飛び、杉岡市長外十四、五名くらいをやり玉にあげたりリストが出来ている。それは勿論、会長や校長は載っている、やられる覚悟はしておらねばならぬということであったので、十月の何日かに此処に移つて来る時には、校長の机だけ、まず上の小さな部屋に移せ、つまり司令部だけ移せということで、校長の机を生徒に持ってもらい、前後に生徒が護衛して行ったことを覚えております。なおこの移転を平穩裏に終らせたことについて、小川さん、福本さんの陰の力がどれ程役立ったかを申し添えておきます。

茶谷 進駐軍が非常に芦高のバックをしてくれまして、万一暴力団に襲われることがあれば進駐軍が面倒見てやろうということがあったのと、まあ、毒は毒を以て制した方がよ

は、市会からも「よく自重してくれて結構だった」というし、県庁もそう、いうわけですね。結局あれは理論的にはこちらの方が勝っていたと思うのです。勝っているというよりかこっかが筋が通っているんです。向側は全然筋が通っていないのですよ。もう一つ端的にいえばですよ、全然なつちよらんといいたいくらいですよ。なつちよらんというのは、また逆に問題にならないことですね。向うはなつちよらんのは覚悟でやっているのだから、だから向うは宮川校のあそこですね、父兄大会をひらいたりね。あれにも行きましたよ。いや、あれは行かなかったかなあ。三枝さんとかね、教育部長をしていた。誰だったかな、

阪部 村本さん。

茶谷 そり、村本さん。村本さんも行ったね、村本さんが首を絞められたりね、椅子を投げられたりね、非常な混乱があったんです。しかし結局うまくいったというわけですね。それね、私も随分皆に助けられて声援をされたわけです。この副会長（川越）さんに迷惑をかけてね。いやいや非常にお世話になったのです。

川越 只今茶谷さんなり、また阪部前校長

いという一部の御意見もあったようで、相当戦闘体形が双方とも整った訳ですが、そういう不祥なことも起りませんでした。移転の時は進駐軍が来てくれましたよ。あの日にジープが来てくれたので問題もなかったのですが、根本的にどうもわれわれの考え方からいうと向う側が無理なように受けとれる訳です。それで私達が強く出られたというのは、まあ理論闘争では芦高側に十分の理由があったらろうと思っております。ただ向うが移らせないというのは、おれの校舎だからというのです。今申しましたようにいずれの日にか芦屋の子弟は高等学校に来るのだから、高校など芦屋にはいらんという、そういう議論は成り立たないのです。また仮にそういうことが成り立つとしても、市会で、始めから芦高にやらないということであれば、こちらとしても他にやり方もあったのですけれど、よろしい、果へ移管するO・Kとなつてから、いやだということです。教育会でしたかね、審議会ですか、その会合に、私も出ましたが、それから市役所の日本間でも何か会があったね。何しろ相当理論闘争の盛んな時代で、この宮川校の父兄会長というのが私の友達でしたら、平常はおとなしい男なんだけれど、どう

さんからお話があったのですが、丁度その問題は二十二年の二月に決定しております。私

がその四月に始めて当選しまして、五月から市会に席をおくようになりました。当時はまだ迂遠でございましてこの宮川問題、それから芦中問題というこの問題がくすぶっておるといふことは実は知らなかった。もとの芦中の焼跡へ中学校を建てるんだという計画のもとに地を見に参りました時、この問題が起つているんだというのを始めて知らされました状態でございます。それから今お話になりましたように問題が非常に混乱して参つたので、その頂点が七月から八月へかけて、丁度今頃であつたと思ひますが——これは差障りがございしますので、芦高自体には直接関係はないこととございしますから、宮川の方の動きなどは略しますが、当時私は茶谷さんには個人的にお目にかかる機会はなかった。市会の方は一二の宮川小学校に直接関係のある職員を除きましては、それは全面的に芦高が必要であるということに一致して認めておりました。その時にある人から茶谷さんのお言葉として聞きましたのは、オソーティを尊重しなればいけないということであつたのをいまだに私は覚えております。そしてこの声

もこの話になると話がわからん。「お前のよりにわけのわからんやつはないじやないか」といってやったが、どうも理論闘争ではこっちの方が正しいんです。ですからもう話は後になると、しょっちゅう暗黒低速というのですから、奥歯に物がはさまつたようで、割切れないわけですね。随分むちゃな話だと私等は思いましたね。もう少し端的にいえば、向側の人々は、自分のためという語弊があるが、まあ、いろんな事のためにやっているとしたか考えられかねたですね。次の市会の選挙のために、いろいろなこと。そんな事をいっちゃ悪いけれど、そんな事があつたんじゃないでしょうかね。ともかく割り切れないのです。それに対してこちらの父兄の方には無理がなかつたようでした。こちらの父兄にも元氣な方がおりましたね、一緒に県庁に行つて下さつたりしましたよ。今日ここにこ見えにならないが仲々元氣者もおりましたし、こちらの父兄も、仏教会館でさっきのお話のように父兄大会を開きました。しかし、あの時の芦高の父兄会の態度は、これは我田引水かも知れないが、後からはめられた。非常におだやかで、非常にロジカルで、非常によく自重をしたということ

高の育友会の動きを、市会の方からうかがい

でも穏健な、合理的な一線を確認していらっ

止めます。(笑)

堀内 宮川校の本校への移管のことについて茶谷さんからお話のあつたこと以外に補足していただくことがあればいただいて、あとの校舎増築、運動場の問題は、ここで十

分間休憩して後にお願しいと思います。ただ今お話にありました宮川校移管当時のお話がございますらお話し願います。

橋谷 それじゃ、私は年をとって記憶が非常にすりすりのので、茶谷さんが話された以上に蛇足をつけることはしないで……。私は泉谷さんと二人で副会長を引受けまして、結局茶谷さんのやっておられる躰尾に附してやらせていただいたに過ぎないのです。実に茶谷さんは会をリードし、マネージしてゆく才能がうまいですね。いつでも副会長が会計報告やその他すべてのことも報告すべきなんです。私が途中までやると、実にもういふから、茶谷さんあんたやって下さい。途中でこれと云って、大会の最中に逃げたようにやうなわけで、こういう会長だった為に、うまくスムーズに行きました。あの当時は校舎の引越しにつきましては、今お話があったように、しまいは感情問題みたいなもので、結局は芦高の方の会と宮川の方の会と、会と会との問題になったようです。宮川の方の会にはこういう話が出たときと情報が入るし、こちらの方の話があったことや会議したことはみな、宮川へ突抜けるのです。それは同じ一家で宮川に行っている子供と芦高の方に行

っている子供と両方あるので誰がどういふことをいっただかく分るのです。こういう家庭では芦高の必要なことは勿論認識しておるのです。結局いろいろの事で苦勞をいたしました。幸に今日の芦高が出来ました。実に夢のようなわけです。

泉谷 実は私は非常に不熱心なものでございまして、子供が御厄介になっておりながら学校に向うこともなかったのですが、ある日曜のこと、阪部先生がわざわざ家にお越し下さいまして、副会長になれと云ういうので、ございまして。私はこういう未熟なもので、芦屋高校の副会長というような大任をお受けすることが出来る柄ではございませんと申し上げて実はおことわりしたのですが、ともかくやらなければならぬというお言葉でございましてので、お引受けいたしました。始めての会合に寄せていただきましたところ、茶谷会長さん始め、副会長をやっておられた橋谷さん、その他皆操縦立派な方ばかりでございまして、誠に恐縮いたしました次第でございす。ただ今茶谷会長さんからおっしゃられました通り、移転問題は大きな問題でございまして、いろいろのことがありましたが、私は会長さんや、橋谷さんの御命令によりまして

走り使いをさせていただいたというわけでございます。まして、一向にお役に立たなかったことを今更非常に申しわけなく存じておるのでございまして。当時私達の考えといたしましては、この芦屋という土地柄は皆様が御承知の通り阪神間における立派な実業家のお住いになつて居る処であります。将来この芦屋高校が無事に移転を完了しまして、この芦屋高校で、大阪、神戸の商工業をリードする立派な方々を養成していただくべき土地柄でもありまた学校でもありますことを期待いたしました次第であります。ところがわれわれの考えておりました通り、今日におきましては、その後の校長先生、また校長先生を中心としての職員一同の方々、またその後の父兄会の会長さん、理事の方々が非常な御努力をされていたのでございまして、今日では名門芦屋高校として躍進を遂げていただいたということは、誠に喜びに堪えない次第であります。どうかこの上とも、日本における立派な学徒をお作り下さいまして、またこの方々が実業界並びにわが国の指導者として立派な方々になつていただくことを希望いたします次第でございまして。

— 休憩 — (写真撮影)

「設備問題」

堀内 高等学校として理科教育の設備がなければいかんといったようなことがあったのですか。

阪部 きっかけを作るために私から話しましょう。この校舎へ全部移りまして、早速にも校舎の改築等の問題にからなければならぬのですが、そこへ手をつける余裕がなく、それよりも更に緊急な問題は運動場を造ることでした。丁度今野球場に使っている運動場は焼跡でありまして瓦礫が山積して使った。この焼跡を市の方では遊園地として使う。従ってこれを運動場として学校の方では使ってもらおうという条件で寄附されていった。しかしこれもなかなか急なことには運動場になりません。それで生徒は度々私の所へ参り、いつになったら使えるのか、われわれが卒業するまでにはあの運動場は使えないのかと迫って来たものです。どのくらいでしか三谷さんなら分ると思いますが、相当運動場にするために市の方に御厄介になったのです。果会議員の堺留吉さんも非常にお骨折に下さいました。そしてあれを全部運動場にいたしました。こうして運動場は大体出来て

りになりましたが、高校としての内容は何もありません。理科の設備もありませんし、参考書もありません。内容充実のため数百万円の金があるということになりました。育友会ではこれに随分お骨折になりました。六七〇万円の県債を起してもらい、この職災校の芦屋高を高等学校の最低基準にまで持って行くという処までこぎつけました。その当時の育友会長は橋谷さんでした。では橋谷さんの方へ。

橋谷 茶谷さんの会長の時、私は名前だけでよいからというので副会長を引受けたのですが、茶谷さんが阪部先生にだまされたいわれたと同じように私は茶谷さんにだまされまされた。(笑) 私は何にもしなくてもよい積りでしたのですが、その後茶谷さんが会長をよしたあと、僕に会長をやれという話なんです。僕は絶対不向だからと断って断ったのですが、校長さん家へ来られる。茶谷さんは始めから僕にやれの一点張りで、断り切れなかつたとうり引受けました。それで副会長の立派な人があれば引受けましょうという条件も出したのですが、戸谷さんがやろうというので、それじゃよからうというので引受けました。私は運がよく副会長の時

は茶谷会長であるし、会長の時は副会長に恵まれました。今、阪部校長先生がおっしゃったように施設の問題も大変なことでした。私は何かといえはやっぱり茶谷さんをついても引張り出すことにしました。私は県庁に三十回くらゐ通つたのです。校長先生始め皆さんとね。ある時なかなか、理事の一人の福本さん。……あの人は非常にいい芝居をしてくれましたよ。芝居をするにいい人ばかりでなく、やはりにくまれ役を買って出る人が一人二人いないと芝居にはならんのです。福本さんには随分とお世話になりましたよ。県庁に行きましても、なかなかむつかしいのです。県債をやるのにはね。ところが福本さんが、「一体芦高というのは県の学校じゃないか、そうなればわれわれが頼みになる筋合のものではない。県の方からたのんで、こういふふうに、すべきだのに、県債をこちらから頼みに来るのは間違っている」とどなるものだから、それで僕が「そういっても、県の方にも御事情があるから」と芝居をやるんです。そういふようなことね、なんとかこじつけまして。あんまり具体的な話は後に悪いですからこの辺で。

阪部 いまお話になりました福本さんのこ

とですが、会長、副会長その他皆様と県庁へお邪魔したときです。部長、課長の前で福本さんがステツキをこう前について、そして今おっしゃる通りに「この学校は県立か私立かどっちかいってこれ」「いや県立でございませよ」「それなら県立らしくせよ」というて、ステツキをどんとついて圧力をかけたのですね。(笑)それで後で堀部長さんのお話をうかがいましたが、「あの時なくられるだろうかと非常にこわかった。芦屋の父兄会にはえらい者がおるな」(笑)と、そういうことがございまして、会長さんがまああととだめ役をされたのはその時のことでございまして。戸谷さんどうぞ

一、六七〇万円の県債発行

戸谷 橋谷さんが金の方は君がやれやれというので私はあちこち走りまわったのですが、あの時、理事の福井さんが、県債が発行になれば銀行からうまく金の出せるというよい情報を持って来てくれましたね、それに福本さんがいい構想を出してくれまして、銀行と話をしてくれましたね。銀行はあの当時公債は絶対禁止されていたのですよ。ただし縁故募集はその限りにあらずとなっていました

阪部 そうでしたかね。一寸この際石崎さんのことを付け加えておきたいのです。この設備資金というのは毎月生徒から百円ずつ取ったんです。これは茶谷会長さん、橋谷会長さんの時から取っていたと思うのですが、父兄役員の方から御希望があつて一応やめたことがあつた。半年位やめた時第二運動場の問題が起つたのです。県では買ってくれないので父兄の方へお願いして今のようなことになつてしまつたのです。その時に私はこれはどうしても金が足りないから設備資金をもう一度集めなければならぬと思ひまして石崎さんの息子さんが生徒の自治会の中心になつていらっしゃるんですが、生徒を集めまして「覚悟してくれ、もとの通り設備資金を百円ずつ集める。そうしなければあの運動場は買えない。今運動場を買っておかぬと終生買えない。芦高のためにはどうしても必要であるから、もしこの金を集めるために問題が起つたらわしがやるから」といって校長の地位とかえことで運動場をやるという決意を生徒の役員に伝えたのでした。こぞで養成

た。それも二十四年二月一ぱいでしたかな、そのあとは縁故募集がなくなるのですよ。その期間に何とかせにやならんと足を運びましたね。あの当時、大蔵省がどうやこうやいろいろしていましたので、県の方もなかなか遅々として、実現までに相当期間かかりましたので、一時はどうかと案じていましたが、もう確実だということが県庁へ行つてわかりました。神戸銀行が六百七十万円の金を県庁へ持つて行つてくれましたね。神戸銀行が縁故募集の六百七十万円を、福本さんの口添えで、縁故募集をして縁故者が引受けたことにしてくれて、その公債をすぐ銀行へ渡した。まあそういうことであの計画については三谷さんも随分県庁へ走つてくれました。校長さんと私も随分よく走りまして、私も今から考えると夢のようで、何もかも忘れてしまつているが、校長先生が、六百七十万円の金が芦高に廻るようになったその日、県庁の外に出て俵の手を握つて、非常に感極まられた場面があつたのです。私はそれだけを記憶しています。

二、第二運動場建設

分やつてくれました。あちこちで土地を買つて芦屋市の緑地帯予定地、今のテニスコートの土地と換地してもらつたのですよ。これも相当問題がありました。寄附も多少募金したりしました。あの当時からですかね、入学の時に千円もらうことにしたのは。それから銀行から金を借りるために神戸銀行の幸運定期を父兄に買ってもらいましたね。あれは二百三十万円でしたか。工事費を入れたがね。そこで八月から復活した月額百円の設備資金で百何十万円かを、それに入学寄附金で五十万円程賄つたかね。それとあとらぬだけは父兄に幸運定期を四十万円か五十万円してもらつてね。あれは割合成績がよく、何でも八十万円ほど集まりましたね。その金は毎月設備資金と入学時の寄付金とで返して行くという返済計画を立て、おかげで第二運動場が出来た訳でした。あれは(入学時の寄付)は二十五年でしたか二十四年でしたかね。

三谷 二十四年です。

戸谷 償還には一寸時日を要しましたね。第二運動場を建設する時に野球のバックネットも一緒に作つていただいた。筈谷さんにやすすくやつて戴きました。学校が借金して造つた金では足りなかつたのですが、その不足分

はおくれてもよい。やすくやりましようといふことで一これは裏話ですが非常に安くやつて戴いてね。

いや黙認してくれた。その時石崎さんは「せつかくあれを買つてしまふなら一べんにコートをこしらえてしまいなさい」ということでした。幸い、うち(石崎さんの会社)に入つてコートを造つた筈谷さんがなかなか責任ある仕事をする人だからとにかくやつてしまえ。やつてしまふたら金はどこからか出てくる。チクリチクリやつていたので到底出来ないから、ともかく今借金してもやつてしまえ。そしてまかりちがえば私が引受けるという勢でありました。それで私も何だか心配でありましたが、生徒に青写真を見せたら「先生これはいつ出来るのですか」というので、「いや一べんにやるんだ」。生徒も不審に思ひ、出来るか出来ぬか疑わしく思つていふ顔をしていましたが、結局石崎さんの、大胆なお考えによつてコート八面が一べんに出来たのです。

戸谷 あれはもし金が出来ねば石崎さんと二人で持とうかと話した事もあります。ともかく予定通り出来て非常に楽しい思出になつております。あれは実によく出来ました。今日になつたらお金の問題ではないですね。あの時土地は割合安く買いましたね。三谷さん我々が買いましたかね。坪千円くらいでした

かね。

三谷 上の六四〇坪が八〇〇円、その東の市営住宅の建つている処が千円で四二〇坪です。これだけでは少し足らん。一四〇〇坪にもう二三坪足らんというので結局第二運動場の西の方に四〇〇坪でございましてそれを半分、分けてもらいました。しまい程うなぎ上りとなり、この分は一六〇〇円だったと思ひます。大体に安く分けてもらいました。

戸谷 平均して千円余ですね。まあ家が建ちましたら全然金銭にはかわららず、駄目ですからね。この校門前の土地をといつたのですが、一、二軒家が建つていたのですが、これは立退料とか居住権の問題があり、なかなか無理だから次善策として今のテニスコートの処を手に入れようとしたのでした。それに對し、あれは市のもだから換地せねばならんということになり、三谷さんのおっしゃつた通りに換地の土地を買つてやつと手に入れました。それからこれの工事にかかる時非常に石崎さんが力を入れて下さいました。工事もういろいろ見積をとりまして一番よいのでやりました。数ヶ所で見積をさせ、一番良いのを探つて、それを筈谷さんが安くやつてくれました。皆様の御同情で漸く出来上りました

た。それから私は会長を三年程させていた
きましたけれど、私の会長時代はいわばま
め役というのか、実はあの当時の理事ある
は評議員さんがね、非常に御熱心でね、私は
皆さんの熱意に負けて動いていたというだけ
で、受身でございました。それを今でもつく
づく感謝しています。

三、校舎、図書館の増築

飯部 家庭科の教室が出来たのは戸谷さん
の時でしたわ。

戸谷 私の時でしたかね。

飯部 あれは昭和二十五年です。

飯部 百七十万円でしたかね。

戸谷 あの当時のはっきりした記憶がな
いから三谷さん一括して一つ

堀内 図書館は何時頃でございますか。

戸谷 あれも私の最終でしたかね。

福田 ええ、二十六年です。

飯部 飯部校長の時、県の予算が出来、百
二十万円で二十六年の十月に出来ました。
飯部 予算は百二十万円だったように思い
ます。私は二階建てしようと思いましたが、
営繕課長が来校され二階建てこんな処にう
つらん、平家の上品なものにせいという事

それで建ててもらおうとお願ひしたのでした
が、県の議事課長の処に行きましたら、図書
館だったら建てないとのことでした。そこで
「いや図書館ではない、社会科の教室を建て
るんだ」ということになり、図書館に転用し
た訳です。県立高校で県費で図書館を建てた
のは本校が初めてであるように思います。

四、第二号館(中館)の建築

堀内 中館が出来たのは。

飯部 本館だけでは高等学校の基準に合
ないといつて第二号館が出来たのは大分早
いですよ。昭和二十二、三年頃ではないで
すか。

戸谷 六百七十万円の県費をもらう前に二
号館は出来ていましたよ。茶谷さんの会長の
時ですよ。

飯部 これは芦屋市の費用でやった。もう
一棟建て、それに運動場をつけるから高等学
校にしてくれという芦屋市の条件でした。芦
屋市の費用で七十万円か建てたのではない
ですか。ところがその建物ですわね。非常に
悪いのですよ。この辺で、横断的に悪いの
で、評判になった建物です。(笑) 補修工作
をして使うようになったのですが、随分高い

物についている訳ですなあ。これは三谷さん
が詳しいから三谷さんお願ひします。

三谷 それでは私が補足致しますが、最初
の県と市との話し合いでは、あれはまあ市の責
任となっていました。大体、私、考えますの
に昭和十五年当時の価値と二十三年、四年の物
価とは相当開きが出来て来たので、市として
は苦しい処で、その当時の茶谷会長のさうい
ろいろなお骨折で、県から田中事務課長さん
がおいでになられたりして、県の方からもそ
れじやあ幾分かは応援しようということで、
大体建築費の半額くらいは県費で出ている訳
です。処が施工面の責任は芦屋市にありまし
て、芦屋市で設計監督して出来た校舎なん
でございますが、これは一寸いろいろ差障りが
あると思いますが、これは一寸いろいろ差障りが
あると思いますから遠慮致しますが、外観上
はほとんど出来上っているのに向使えぬと
いう訳です。ところが御父兄の方から、あれ
は出来ているのになんで使わぬのかという
御注意もありましたが、實際使えないので
す。その原因は一寸差障りを感じていただけま
す。当時、県には、以前芦屋の助役さんをして
居られた西村さんが総務部長をして居られ
まして、芦屋の事情がよく御承知でございま
したので、いろいろ県の御協力も得まして、

修繕というところか、実際は相当大きな
設備の仕直しをしました。まあ一例をあげま
すと、窓の戸を右にもって行けば固くて一尺
程縮まらない。左にもって行けばはずれて仕舞
うという工合で、一応ガラスも入って形は出
来ているが、そんな具合です。床を歩けば新
しい間からバネの入った床みたいであり、天
井裏に入れば、肝心な処に何ぞが入っておら
ん。こういうことで、これは實際使えなかつ
た訳です。それを相当な額をもって、父兄会
と県との協力によりやり直した訳でありま
す。

飯野 今も不完全ですが、どうか使えま
す。私が参りましてから三谷君も知っており
ますが、はりを全部補強しまして、また犬走り
と側溝がないのでそれも作りました。化学教
室と物理教室が使いものにならない。例をあげ
ると、化学教室の如き、使用の水が床の下に
流れっぱなし、下が砂地だからよいようなも
の、水でグチャグチャです。溝を作り、水
はけが出来るようにし、机なんかも全部新し
く取りかえちゃったのです。それでどうやら
今使っています。でもまだ不十分ですが、危
険の場所はありません。金具で皆しめて、は
りの細いのも補強してあります。

三谷 皆様御承知の通り毎年県の事務監査
があります。そこで学校長さんは、これから
先の要望といつたことを何時もいわれるので
すが、その時「第二校舎は非常に危険である
から、使いものにならない、何んとかしてま
らね」といふ要望をされた。「そんな危険
なものを校長は何で使っているか。ともかく
見に行こう」ということで、監査の途中で見
に行つてもらい「成程これは使えん。早速そ
の手続きをせよ、われわれの方も県にいうか
らやれ」ということでした。学校長はなんで
危険なものを使つていたかとお叱りを受けて
いろいろと直された訳です。

茶谷 いろいろ折衝して市でも建ててや
る。それから県からも補助するということに
なりました。それと、も一つ便所が悪かつた
よ。女子の便所がないというのでね。あれは
私がやめてから橋谷さんやおやりになったの
ですが、これも女子が来るからという高校の
悩みの一つでした。もういいんでしょや
ね。

飯野 出来ました。

茶谷 出来ましたか。それと中館を私は非
常に心配しておつたのです。理科教室がない
と高等学校の資格審査にもれる。それで芦屋

市が密附してやる。県では補助してやるとい
うことになったのです。私はあの竣工を見な
いでやめたのですが、しかし出来た時には見
に来たですよ。橋谷さんが見に来いというの
で。

「其の他の思出」

福田 井上さん何か。

井上 私は戸谷さんの走り使いをしたばか
りでした、また先輩各位がほとんど言いつく
されておりますので、申上げることはありま
せん。小運動場でございますが、これも校長
が非常に心配されていたのですが、買うのは
買いたいが金がない。どうするかと思案投げ
首の時に、先程申しましたように華運定期を
買つてもらおう。その裏付けは武庫川の女学校
が入学の時やつているように応分の密附を願
おうではないかというところで戸谷さんと一緒
にやりました。お蔭でスムーズに行きました
たけれど、案ずるより生むは易く案外うまく
いきまして、払う方も苦勞しなかったことを
愉快に思つております。その当時、有本君が
野球で優勝戦まで行きましたがね。(註昭和
二十四年選抜野球)それからサッカーが優勝

して、園へ行つたのは、何年でしたかね。

飯野 二十六年です。

井上 二十六年でしたかね、それでは補校投手の時ですか、出場は有難い話ですが金繰りがつかず、野球は勝てば九万円ですかね、もらえら。丁度茶谷さんが後援会長であった時です。私は丁度盲腸を切って間もなかった時ですが、三谷さんから電話がかかって来て、なんとかしてくれとのことでしたので、本山とか本庄へ金を集めに行き、やれやれの時、こんどはサッカーの方が西日本大会に行くが金がない。勝てば勝つてとにかく金を集めることばかりやってね。

堀内 優勝したのは二十七年でしたかね。

飯野 丹羽さんの会長の時優勝しました。阪部 これからがいよいよ芦高の発展時代に移るのですが、その前に一寸有本の話が出ましたので、つけ加えていただきます。有本が全国大会に始めて出た頃は本校が設備がなくて、教室の使い方が乱暴だというのが本山でも追出され、ともかく全部引揚げることになり、市役所前の二階建の、何教室ありますか、六教室か五教室ありますが、あそこでもって全校しばらく二部教授、三部教授をやった。日本全国で三部教授の高校の例

く、設備関係では、講堂の修理と東側の教室増築の問題がありまして、いろいろ県にも校長先生と一緒に市の方へもお使いましたのですが、これは確か決まることは決っていたが、完成はのびて二十八年になってから漸く完成になりました。先程からお話のありましたように、最もはなげなしかつたのは芦高の野球の優勝なんです。これは育友会とは直接関係はないようですが、たまたま一年間をお世話になって、芦高が全国優勝のチャンスにめぐりあったことは、私としても千載一遇の好機会に恵まれたものと、非常に喜びを感じたわけでありませぬ。これは芦高の歴史の中に残すわけにはいかぬかも知れませんが、裏話ですか、優勝当時に最も感激して聞かせられたことは、当時のピッチャーの植村君ですね。キャッチャーは石本君でしたね。この二人から直接聞いたわけではありませんから、多少の間違はあるかも知れませんが、一年の時から毎日練習したものと、二里ばかりの距離を毎日駆足で自ら訓練したというところで、一回の優勝のために三年の間こうした努力を続けられたのだというのを一瞬聞きとめまして、目の中があつくなるような感じをしたことがあつたのです。何事かを達成す

はないというものでありましたが、その頃には有本が、どこで練習をしたか、勿論大きな練習をする時は師範学校まで上つたのでありますが、ピッチャーの練習をやっているのを見たりは、鼻つくような板敷の中で、道路でやると叱られますから、それで門の中でピッチャーの練習を、物凄くスピードのある練習を見ましたかね。それで当時私に、この芦屋市の有力な方が、こういうことをいわれまして。高校を作つてもらいたいといつて運動に廻っているときに、その方が「僕はつくづく思うんだが、あそこでは運動場も何もなし。一体生徒を集める時、どこに集めるのか」とのことでしたから「それはあの松の木の中で集める」と答えました。松林の中に大きな土管など沢山おいてありましたが、校長が土管に上つて、生徒を松の木の間を集めました。雨の降る時もありましたが、そんな時には集める所がありません。ともかく、そういう具合で、何も設備がないのだという、その人曰く「芦屋中学の生徒があれで辛抱しているのは、よっぽど馬鹿か、よっぽど偉いか、この二つの中の一つや。よう辛抱してるなあ」といわれた。これを聞いて、私は「そうかなあ、馬鹿かなあ」とつくづく考えたのです。

が、そういう人は相当えらい方でしたが、なる程、はたからみるとそう思いなまるなあ、しかし馬鹿な学校だったら野球には優勝しないだろう。あの設備のないところで優勝したのだ。運動場のない時に第二回、第三回の優勝をしたのです。私は芦高生の優秀であることをかたく信じて、何としても高校の復興をやりうと考えました。この時代は文字通り私の激戦苦闘の時代でありましたのです。これからまあ一つ芦高全盛時代の話を承りたいと思います。

一、野球部全国大会に優勝

堀内 二十七年の優勝を……

丹羽 先程校長先生のお話にありました通り、十五年間に驚異的に発展を遂げてくれた芦高の苦難時代のお話をいろいろ承りました。大変意義深く思いました。私が会長でありました昭和二十七年度は、仮に川の流れにたとえたと、溪谷を出て平野に流れ入った時代と言いましよ、極めて平穩無事、しかも土地柄の関係もあり、一般育友会の方々や高校当局との折合いからいって、またいろいろな会合でも、さすがは芦高の方々だといふ感じを深くしたわけ、何の問題もな

るためには、そこにこうした目に見えない大きな努力といえますか、真心といえますか、人間業では出来ないような努力がそがれで、始めて表面に現われた優勝ということになるという事は、われわれに対する非常に大きな教訓だと思つて感心したことがあります。優勝とか、提灯行列とか、爽にはなげなしいことにもめぐりあつていただいたことを今でも感謝しています。

岡 本日に今日は、われわれ後輩といたしまして、誠に感謝に堪えない話をうかがいました。岩園の播磨時代、あるいは打出の仮校舎、それが焼けて、またここに宮川校に来るこの苦心は皆様淡々としてお話になっていますが、それは決して垣々たる道ではなかったと私は拝察いたします。阪部先生は坂を歩かれるんであつたように思ふのです（笑）それから第一番に茶谷さん、話を聞くに谷の底へ坂を下つておられ。拜見しますのに、谷さんが多いですね。茶谷、橋谷、泉谷、戸谷そして事務長が三谷さん。こういう関係でございませう、皆谷の底に入られて努力された。もし誤つて、私どもが、その時代でございしたら、それは岡であつて、一べんに転落して、到底今日のような盛大な芦屋高校を

見ることが出来なかつたと思つたのです。すべて何事も創生以来過ぎ去つたことを考えますと、苦難時代はあるものですが、芦屋高校はど苦難の時代はないと思ふ。要するに。阪部先生の名前が悪かつた。それだけよく、立上られたのは、阪部先生を助けて茶谷さん以下の谷さんが努力された。こういふふうであります。先程から考えていたのです。そういうふうに観察いたしますと芦屋高校の苦難もこれが最後でありまして、ぼつぼつ上つてきまして、私のように岡の上へ上つても沈没せず、あとを継がしていただいて非常に有難く思つています。この苦難を、今日のテーブルコードによつて皆様よく玩味されて今後ともよろしくお願いいたします次第であります。ただ私は一年間重職を汚しましたが、何もございませぬでした。前会長時代に講堂の屋根が飛んでしまつて野天で入学式をやつておられましたが、丁度復興に当たつたのですが、その復興の竣工をみず、私は野天で入学式をやつていたのだいて、野天で卒業式をやつていただくところを幸ひしてこの稱道校の講堂を拜見いたしました卒業式をやりました。それが最も印象の深いことであることをつけ加えて私のあいさつと致します。

二、講堂の改装完成

瀬谷 たまたま芦屋に住みましてから長くなるのですが、丁度終戦後、芦高にくるまでは山手中学校にいろいろ関係していたのですが、山手中学は校舎のない学校でありまして、それから願を出してモデルスクールにならうという考えから建設が始つて、いろいろの問題がふえるに従つて、芦屋市民全体は教育には非常に御熱心である。また芦屋の土地柄これが非常にふさわしいという体験を得て、高校へ参つたのですが、はからずも岡さんの次に会長になりました。もう沢山だと思つていたのですが、子供がお世話になつているのだからというのでやつたわけです。たまたま講堂が飛んで雨さらしであるので、校長室も雨が降るとしみが出来ていたよらかな次第で、何とかしなければいかんというので、丁度岡さんの時代に始まりまして、年内にやらねば卒業式に間に合わないの間に合わせていたというので、これも嘘つしたことになるのですが、いろいろ苦心した結果、県費に地元から出す金があるんだというので、寄附をもらふことにしたのですが、現金がなかったのです。それを何とかしようというので、うまい

口実を設けて、三学期に入る金を一寸借りまして、皆様の御苦心のあとが、あの講堂となつた訳です。講堂が出来れば、ピアノといふことになり、同じ買うならよいものを買おうといふことに話が出来て、あのヤマハのフルコンサートの購入となつた訳です。それから夜の学校の設備、食堂の問題ですが、どうも夜間生の食事が困るというので食堂の設備をしたらということになり、それをやりました。芦屋は父兄が皆非常に御熱心で芦屋らしく、子供のためならと金を惜しまぬという処があり、だんだんと充実して行つたことを嬉しく思っています。

堀内 最後に今後の芦高の教育についての御助言をしていただくことになつていたのですが、すでに予定の時間も過ぎて、晩餐の用意を致してございますので、その席で諸先生も御一緒にお伴させていただきますから、皆様も打ちくつろいで、その間に先生方へも、いろいろと御感想なり、学校のあり方についての御希望なりを、聞かせていただきたいと思ひます。ただ私も關係を致しておりますものとしましては、今日までいろいろと歴代にわたつて御苦心下さいました皆様の御努力に對して、私どもが考えておりますことは、

今日県下におきましても、本校は、成績順位としても高位にあり。かつまた運動方面にもお話の如く、野球のみならず、他の部も相当の上位にございます。学問と申しますか、勉強の方は前校長、学校長、諸先生方がいろいろと苦心をして下さいますので、私どの父兄としましては、先輩諸氏の志を受けつぎまして、出来るだけ設備に力を注ぎ、特に体位の向上につきましては何か、より高い水準の環境に在校生をおきたい。年々入学する五百人の生徒諸君を出来るだけ高い水準の環境で教育してやりたいという気持で、いろいろと御相談をして、十五周年記念事業に育友会としてもある計画しています。どうぞ今後ともよろしく御指導をお願い致します。まだ緒についたばかりで発表の時までに至っておりませんが、どうぞ今後ともよろしく御指導をお願いいたします。